因坊負たり、そのものいよ〳〵大言して歸りぬ、また重ねて約束の日になりて指けるに、今度は三番さして三局ともに其の者負たり、是れ其のもの量をはかりて工夫ありしと見えたり、爰に於て長崎の者舌を吐て大に驚き感じ入り、他國遊歷に及ばず、直に歸國せしとなり、仙角が盤上の聖なりと云ひし果然たり、

〔梵舜日記〕元和四年五月廿八日戊辰、休齋來、終日中將棊也、

〔大江俊光記〕元祿七年四月廿七日、南禪寺德松院長老、野宮中將、北小路主税助俊尚青侍、晝より初昏迄、中將戯にて終日御遊、

〔堺鑑下人物〕中將棊温故

北莊妙國寺寺內法林坊ノ住侶、日蓮宗ノ門徒而、中將棊ノ良手也、或時法皇ノ御所へ召出サレ、法橋宗知ト中將棊ヲサヽシメ、兩人ノ勝負ヲ叡覽アリケルニ、温故兩度勝利ヲ得タリ、因茲天下ノ名人ト聞ヲ取レリ、

〔當世武野俗談〕中將碁

今江戸中にて、中將碁の上手にて其名高く、御旗本衆并福祐の町人、皆其門弟となりて會合する其先生は、西丸御書院番大澤又左衞門と云人なり、濱町に住宅なり、六十計の老人なり、其生付少シ魯鈍なり、されど共名人なり、

〔鴉鷺合戰物語〕鷄漏刻博士禪法　九月廿六日合戰　鴉鷺發心事

知時、爰こそ遁ぬ死處よと云まゝに、手勢三百騎ばかり、一足も去りぞかず、青鷺信濃守が手に懸合せ、勇士と勇士の相逢なれば、尋常に打合て、火花を散して戰ふたり、葉武者は多く打れて、わづかに一騎當千の兵ばかり戰ひ殘りたり、其有樣、勝負せめたる中將棊の盤の上處すさまじき駒の足なみ入亂れて、鳳凰は、奔王と成て八方を破り、飛鷺角鷹は、威を振て當を居食ふ、その働にも